

NEWS RELEASE

2017 年 6 月 2 日

一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟

長崎ケーブルメディアがギャラクシー賞 報道活動部門優秀賞

ひまわりネットワークが奨励賞

志賀信夫賞にジュピターテレコム初代社長西村泰重氏

株式会社長崎ケーブルメディア（長崎県長崎市、代表取締役社長：佐藤 修）が制作した番組「ながさき原爆記録全集～戦略爆撃調査団編～」が、第 54 回ギャラクシー賞 報道活動部門優秀賞を受賞いたしました。

また、ひまわりネットワーク株式会社制作の「3 年 1 組ロド先生」がテレビ部門奨励賞を受賞したほか、株式会社ジュピターテレコムの初代社長西村泰重氏が志賀信夫賞を受賞しました。

ギャラクシー賞は、NPO 放送批評懇談会が日本の放送文化の質的向上を願い、優れた番組・個人・団体を顕彰するもので、1963 年に始まり今年で 54 回目を迎えました。テレビ部門をはじめ、報道活動部門、ラジオ部門、CM 部門の 4 部門から成り、放送業界では最高峰の賞のひとつとされています。

長崎ケーブルメディアの「ながさき原爆記録全集」は、同社がシリーズ番組として継続的に取り組んでおり、昨年も同シリーズの番組で奨励賞を受賞している。ケーブルテレビの地域に密着した取材力と継続的な取り組みが評価された。

西村氏は、ジュピターテレコムの初代社長としてケーブルテレビ事業を通じ、多チャンネルサービスやコミュニティチャンネルの普及に努め、放送文化の発展に貢献したことが評価され、このたびの受賞となった。

報道活動部門優秀賞 長崎ケーブルメディア



志賀信夫賞 西村泰重氏



～本件に関するお問合せは下記までお願いいたします～

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟

担当：中田、尾崎 E-mail：kouhou@catv.or.jp

◆第54回ギャラクシー賞 受賞作品

報道活動部門優秀賞 「ながさき原爆記録全集～戦略爆撃調査団編～」 長崎ケーブルメディア



原爆投下45日後から、2か月に渡って長崎を撮影した映像がある。海兵隊フィルムと呼ばれる5時間30分の映像だ。それはニュースなどで一部が使用されるだけで、全編が紹介されることはなかった。

映像には廃墟と化した長崎の街が鮮明に映し出され、カラーで見る被爆地の臨場感は計り知れないものがある。この映像を解説付きで全て見せることが出来ないだろうか。そんな思いで番組を制作した。

反響は大きく、地元大学から映像提供協力の申し出があり、米戦略爆撃調査団撮影の6時間30分を紹介する新シリーズの制作も開始した。様々な情報や反響が寄せられ不明だった事実も明らかになっていった。そんな新たな発見や証言を盛り込みながら放送を続けている。

テレビ部門奨励賞 「3年1組ロド先生」 ひまわりネットワーク



愛知県の豊田市立保見中学校。そこに1人の教師がいた。日系ブラジル人3世 伊木(いぎ)ロドリゴ、通称「ロド先生」。

外国からの出稼ぎ労働者が多く住む保見地区の保見中学校は、外国籍の生徒が約3割を占める。一口に外国籍の生徒と言っても、その内実は様々。夢に向かって頑張る生徒もいれば、学校に馴染めない生徒もいる。日本の社会の中で生き、様々な壁を乗り越えて教師となったロド先生は、厳しくも前向きなメッセージを生徒達に伝えていた。ロド先生の言葉を胸に、生徒達は保見中学校を巣立っていく。

ブラジル人としてではなく、1人の人間として、生徒達に向き合うロド先生の1年を追った。

※上記の受賞作品はケーブルコンベンション 2017(7/20・21:東京国際フォーラム)において上映会を行います。